

■調査の概要

(1)調査の目的

- 少子化・高齢化や人口減少が進行する中国地域において地方創生を強力に推進するためには、人口ダム効果が期待できる拠点都市を中心とした都市圏における取組が重要。
- ポストコロナ時代にふさわしい都市圏形成について、圏域の地域特性を踏まえた発展の方向性と具体的な取組を検討。

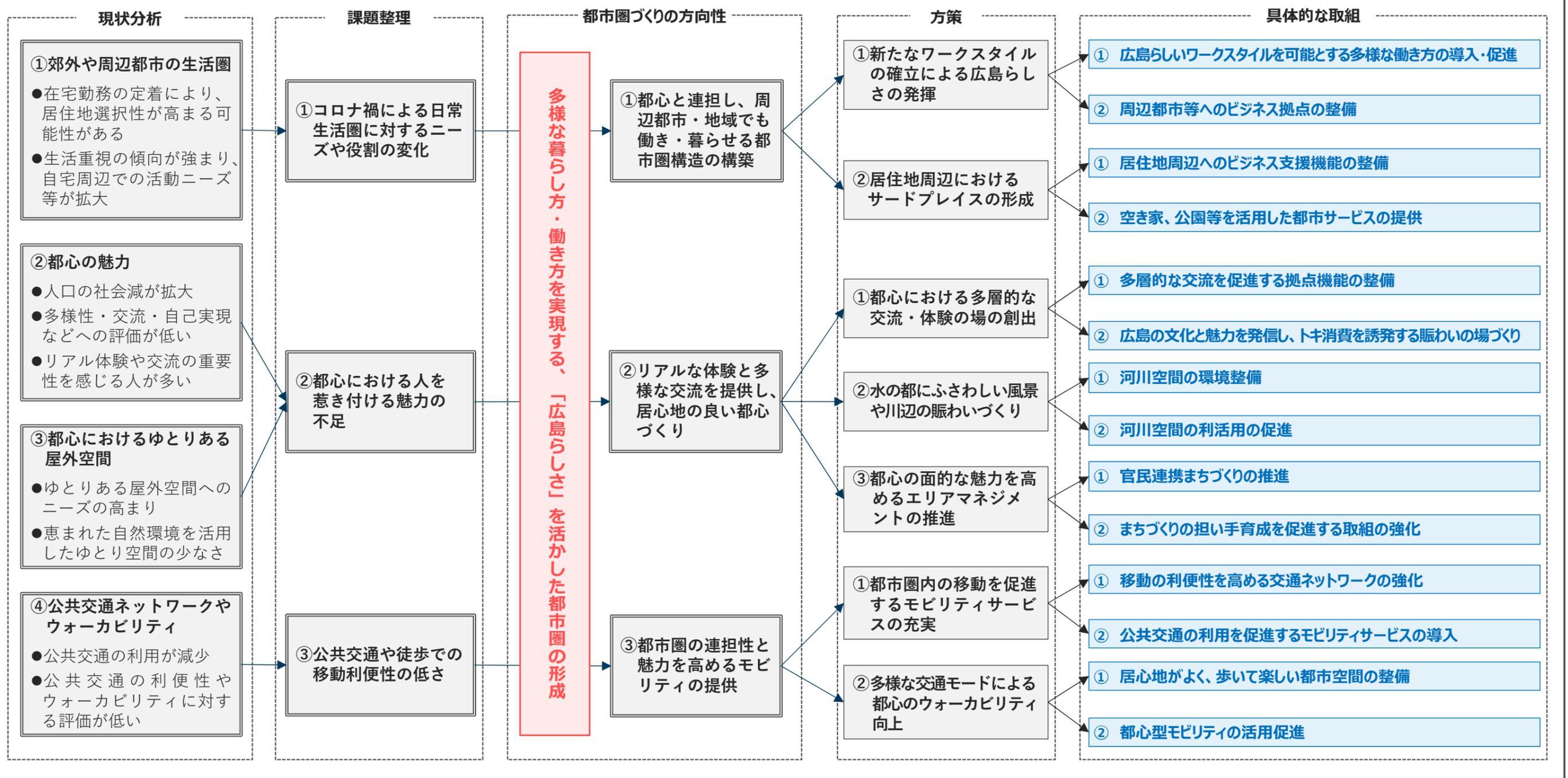
(2)対象圏域

- 広島広域都市圏（広島都市圏）
※広島市の都心部からおおむね60kmの圏内にある、東は三原市エリアから西は山口県柳井市エリアまでの28市町で構成される都市圏

(3)調査の視点

- 人口減少やコロナ禍によるライフスタイル等の変化などを踏まえ、都市圏の機能分担のあり方や拠点都市の機能強化のあり方など、広島都市圏の今後の方向性を検討。
- 時代の潮流を踏まえた長期的な視点から、広島都市圏の特性を踏まえた、広島らしさを活かした方策を検討。
- 「第2期広島広域都市圏発展ビジョン」を踏まえ、ポストコロナ時代における方策を提示。

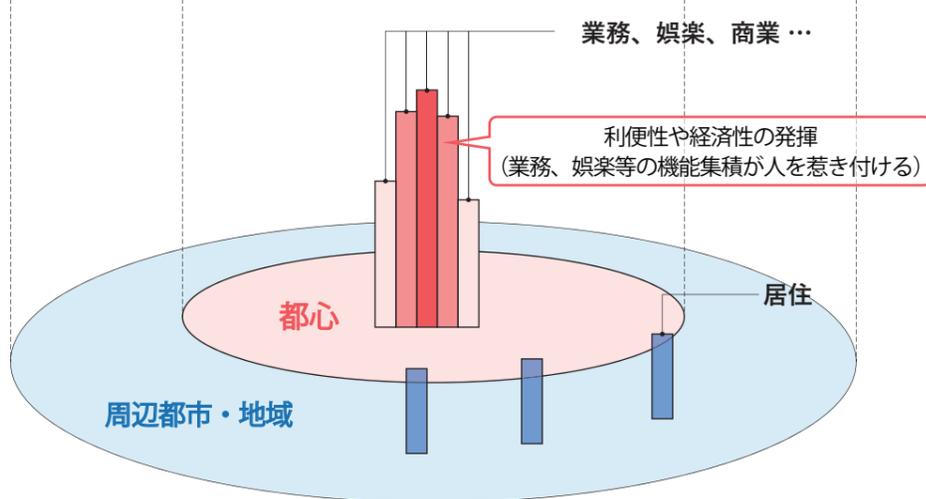
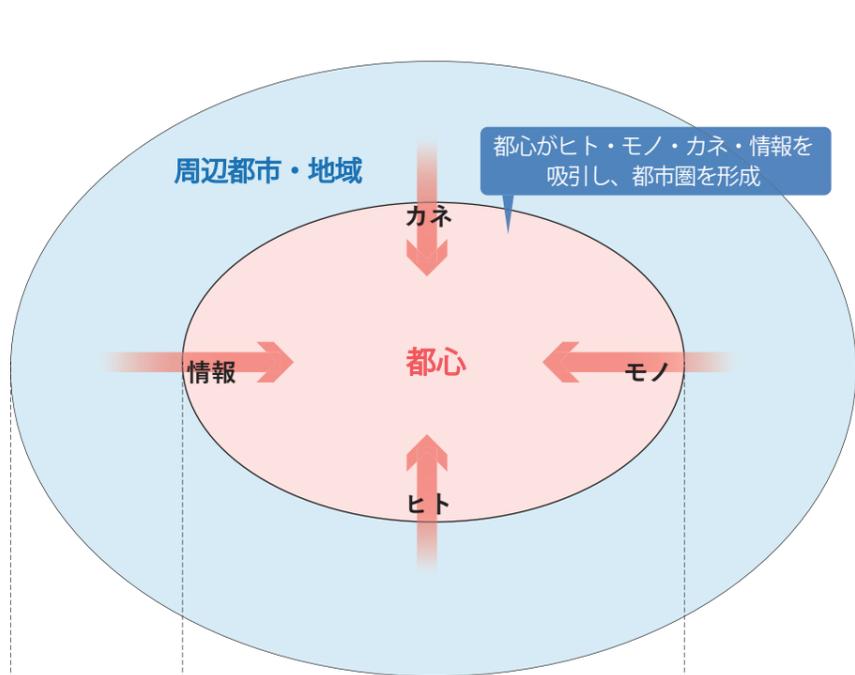
■調査結果



■都市圏づくりの方向性イメージ

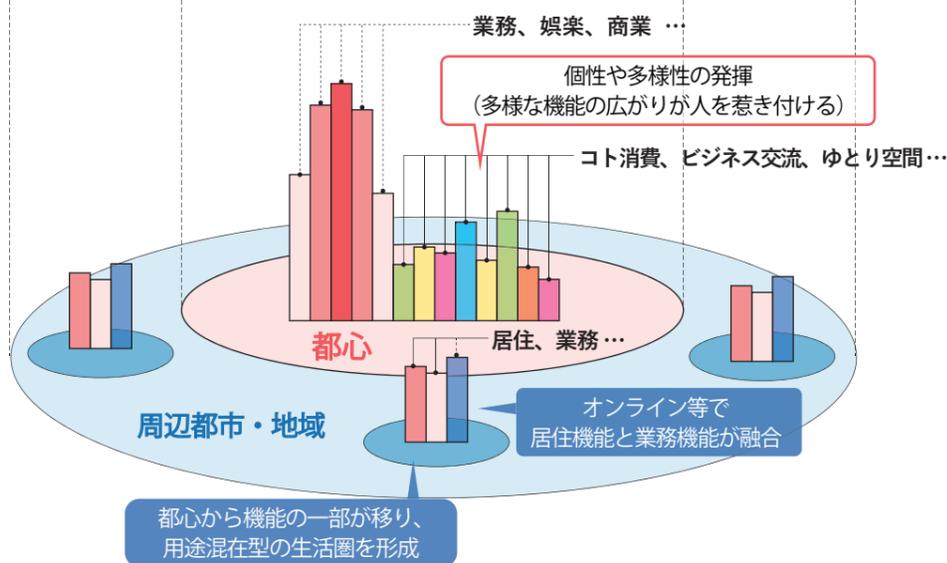
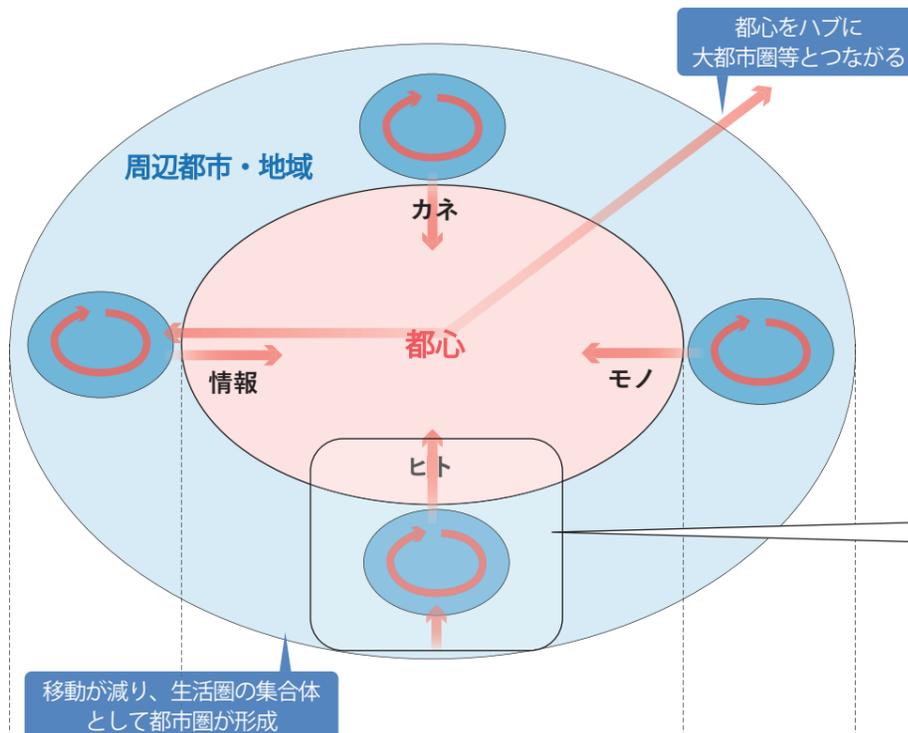
【これまでの都市圏】

- ① 周辺都市・地域等は主に居住機能を担う。
- ② 都心は、主に業務・娯楽等の機能を担い、利便性や経済性で人を惹き付ける。
- ⇒ ヒト・モノ・カネ・情報が、周辺都市・地域等から都心へ集まり、都市圏を形成。

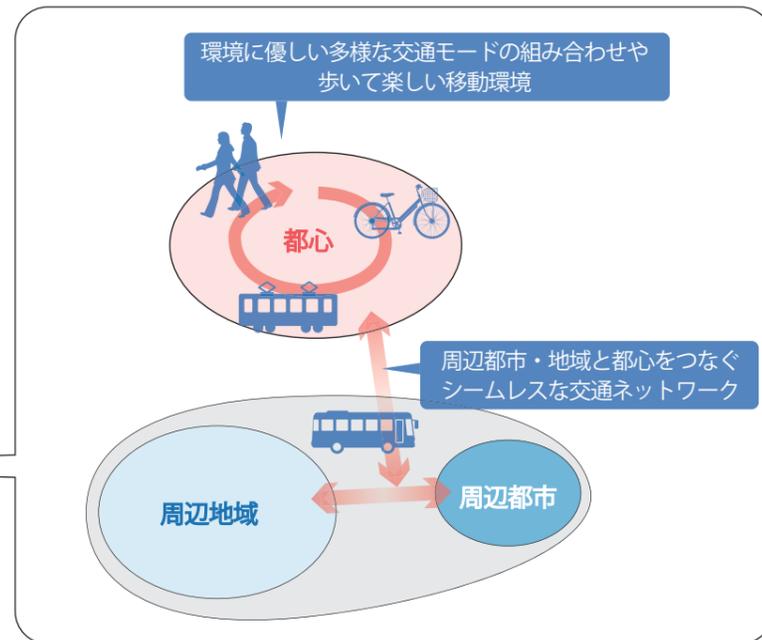


【これからの都市圏】

- ① 周辺都市・地域等は、オンライン等の活用により、働く場と暮らす場が融合した生活圏を形成。
- ② 都心は、利便性や経済性に加え、リアルな体験・交流機会等の提供により、個性や多様性で人を惹き付ける。
- ⇒ オンラインやシームレスな交通ネットワークによって地域が連担し、都市圏を形成。



■これからの都市圏を支えるモビリティ



■今後の具体的取組

	都心	周辺都市・地域	実現に向けた方策
生活圏づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス交流拠点 ・ビジターの拠点施設 ・若者・外国人等向け賃貸住宅 ・体験・体感型の賑わいの場 	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライトオフィス ・サードプレイス (※1) (コワーキング、空き家等の活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・助成、補助 ・規制緩和 ・環境整備 ・施設整備
	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な勤務体系の導入 ・広島の魅力・文化の発信 ・川辺の賑わいづくり ・エリアマネジメントの推進 ・まちづくりの担い手育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な勤務体系の導入 ・身近な公共空間の活用 ・川辺の賑わいづくり 	
モビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・BRT (※2)、結節機能の強化 ・MaaS、完全ゾーン運賃 ・公共交通利用インセンティブ ・ウォーカブルな環境整備 ・都市型モビリティの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・BRT (※2)、結節機能の強化 ・フィーダー交通 (※3) の充実 	

※1 自宅、学校、職場とは別に存在する、居心地の良い場所
 ※2 連節バス、公共車両優先システム、バス専用道、バスレーン等を組み合わせることで、速達性・定時性の確保や輸送能力の増大が可能となる高次の機能を備えたバスシステム
 ※3 幹線と接続し、支線の役割をもって運行される路線バス等